

別記

第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	2019年 7月 25 日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 大阪市西区新町1丁目1番17号	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） ナガセテムテックス株式会社 代表取締役社長 藤井 悟

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	ナガセテムテックス株式会社福知山事業所
導 入 年 月 日	2006年 6月 19日
認 証 番 号	JQCA-E-0753
基 本 方 針	1. 環境関連法規、協定他その他の受入を決めた要求事項を厳守するとともに環境に対する汚染の防止に努めます。 2. 環境目標を達成するために開発技術並びに生産技術能力を高め、持続可能な資源の利用、地球温暖化への対応、生物多様性・生態系の保護に努めます。 3. 事業所内に適切な環境マネジメントシステムを構築しその運用と継続的な改善を行います。 4. 環境に対する基本理念と環境方針を事業所で働く全ての人の間で共有し、環境教育を通じて意識の向上を図ります。またこの基本理念と環境方針を社外に対して公表します。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	1. 廃棄の削減・抑制 2. 環境汚染防止 3. 法規制管理体制の強化 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減 6. 省エネルギー活動の推進
目標を達成するための取組の内容	1. 廃棄の削減・抑制：製造P&Sの削減、試験消耗品の削減 2. 環境汚染防止：漏洩防止 3. 法規制管理体制の強化：管理の徹底 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減：環境負荷軽減製品開発・販売 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減：環境負荷軽減製品開発・販売 6. 省エネルギー活動の推進：省エネ活動にて取組
目標を達成するための取組の進捗状況	1. 廃棄の削減・抑制：製造工程中の事故の削減・抑制等について取組中。 2. 環境汚染防止：流出防止、溶剤ガス発生抑制について問題なし。 3. 法規制管理体制の強化：関係法令遵守状況の定期見直しを実施。 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減：顧客要望に合致し環境負荷にも配慮した新製品の開発に取組中。 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減：工程改善による設備稼働時間当りの出来高改善等検討中。 6. 省エネルギー活動の推進：省エネ活動にて取組中。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	2018年度は検証活動や再処理等によるエネルギーの使用により原単位は増加したが、生産性向上への取組み、省エネ活動等による使用エネルギー削減に向けた継続的な取組を行った結果、全体としてのエネルギー量は減少しており、当社の事業活動は地球環境に貢献していると考えます。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について6カ月毎に確認を行っている。 違反及び行政当局からの指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	1. 環境マネジメントシステムの有効性評価⇒移行更新審査も問題なく終了しており、マネジメントシステムは有効に機能していると判断する。 2. 提案された継続的改善に対する決定⇒各部署で目標達成に取組む。環境にやさしい酵素の市場展開を図る。他マネジメントシステムと連携し事業所の目標達成にむけて取組む。 3. 環境方針・環境目標・経営資源・利害関係者を含む環境マネジメントシステムに関連するあらゆる変更の必要性⇒環境方針については環境目標設定のための枠組みとして、「環境目標を達成するために開発技術並びに生産技術能力を高め、持続可能な資源の利用、地球温暖化への対応、生物多様性・生態系の保護に努めます」を追加した。経営資源・利害関係者については当事業所活動に適合しており変更の必要はないと判断する。 4. 環境目的が達成されていない場合の処置の方法⇒環境目的は達成されていると考える。 5. 環境方針・リーダーシップ・コミットメントのような環境マネジメントシステムの戦略的な方向性に関する事項⇒目指す姿は「グループ内外を問わず、顧客のイノベーションに貢献し、自らの誇りとする集団となり、食品分野を中心に、国内外で環境にやさしい自社開発酵素を核に事業を拡大すること」である。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。